

令和7年度事業・予算について

検討案

大阪市教育振興基本計画

【安全・安心な教育の推進】 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 【学びを支える教育環境の充実】

【予算要求についての考え方】

- ・大阪市教育振興基本計画に沿った形で予算要求を行う。
- ・区予算事業「校長経営戦略支援予算区担当教育次長執行枠」「区まちづくり推進費事業 こどもの貧困対策事業」については教育委員会予算・第3ブロック予算との重複は生じていない。
- ・区役所としては、学力向上・学校教育への支援を主眼に置いた予算要求を行う。

教育委員会の取り組み（抜粋）

支援の重点化

- ・いじめへの対応
- ・不登校への対応
- ・学力区向上支援チーム事業
- ・校長経営戦略支援予算
- ・ブロック化による支援事業

ブロック化による学校支援事業（第3教育ブロック）

- A 基本配付
- B 探求・読解プロジェクト
- C 学び続ける教員の育成
- D 重点支援校

浪速区の取り組み

- <校長経営戦略支援予算区担当教育次長執行枠>
- ・浪速区中学生の学力向上支援事業（なにわ学び教室）
 - ・浪速区教育活動支援事業

浪速区の取り組み

- <区まちづくり推進費事業>
- こどもの貧困対策事業
 - ・浪速まなび支援事業（学習ルーム）

区事業として必要な要件

条件1 事業効果が広く区域全体に波及することが見込まれること

- ・特定の学校にのみ効果があったり、実施の利益を供与されるものは不可

条件2 複数校が実施または連携して取り組み、その成果を共有できるもの

- ・同内容の取組を区内の2校以上が個別に実施、小中連携や小中連携の一環として一つの取り組みを複数校で実施、広く成果を共有できる取り組みなどが対象

条件3 事業目的が区のミッションに合致していること

- ・学力の向上、体力の向上、キャリア教育の推進など区が支援することに説明責任が果たせる合理性があること

条件4 事業の実施効果を明確に測定できること

- ・児童(生徒)アンケートの結果、○○○と答える児童(生徒)の割合を令和6年度から○ポイント増加させる など

令和7年度に向けた予算の考え方（案）

校長経営戦略支援予算区担当教育次長執行枠	事業名	令和6年度予算 単位：千円		事業名	令和7年度予算 単位：千円		考え方
		小学校対象	中学校対象		小学校対象	中学校対象	
	浪速区中学生の学力向上支援事業 (なにわ学び教室) 【※大阪市塾代助成事業活用】		1,557	浪速区中学生の学力向上支援事業 (なにわ学び教室) 【※大阪市塾代助成事業活用】		1,557	【現状維持】
	浪速区教育活動支援事業	2,753	925	浪速区 教育活動支援事業	2,726	846	【現状維持】
				【仮称】 浪速区小学生の学力向上支援事業	106		【新規】
	計	5,235		計	5,235		

【重点予算】 子どもの貧困対策事業	事業名	令和6年度予算 単位：千円		事業名	令和7年度予算 単位：千円		考え方
		小学校対象	中学校対象		小中学校対象	中学校対象	
	浪速まなび支援事業 (学習ルーム)		9,939	【仮称】 浪速区登校支援が必要な 児童生徒への支援事業		2,194	【新規】

※浪速まなび支援事業は令和6年度をもって終了

①浪速区中学生の学力向上支援事業（なにわ学び教室）

令和6年度の実施内容

○ 通常教室 （実施期間）

令和6年4月～翌3月
無料体験教室：令和5年4月、6月
通常教室：5月～翌3月
（週2日・中学校等で実施）月額10,000円
※大阪市習い事・塾代助成事業を利用すれば、参加費実質無料

○ 特別教室 （実施期間）

令和6年7月22日～8月8日 14日間
（参加費無料）

○ 理解度テスト ※事業効果測定として

7月・11月・2月 計3回実施

令和7年度の方角性

現状維持

家庭の経済事情等に関わりなく
放課後の学習時間の確保及び学
習機会を提供する

令和6年実施状況（令和6年6月末現在の登録状況）

- ・通常教室については、各教室定員が27名程度。
各校とも定員を満たしていないが5月以降申込は増加している。
- ・特別教室については、定員が30名のところ27名の申込があった。

	中1	中2	中3	計
難波中学校	4人	3人	1人	8人
木津中学校	4人	5人	1人	10人
日本橋中学校	6人	3人	4人	13人

②浪速区教育活動支援事業

令和6年度の実施内容

○ 予算

3,678千円

○ 支援上限額

令和6年5月1日現在の学級数に応じて案分

○ 事業内容

- ①～③の事業を選択し実施する。
- ①日本語の指導が必要な児童生徒への支援
- ②漢検受験支援
- ③教育環境の向上支援（教材等の購入）



令和7年度の方角性

現状維持

令和6年実施状況（令和6年6月末現在）

- ①サポーター登録者数 …56名
配置校数（活動サポーター数） …小学校 6校（7名）、中学校 3校（3名）
- ②漢検受験支援 区内5小学校において実施予定
- ③教材等の購入 7月に業者より納品予定

③浪速まなび支援事業（学習ルーム）

令和6年度の実施内容

○ 予算	9,939千円
○ 実施校数	全小学校
○ 実施日数	年間100日
○ 実施対象	原則小学校1年生～3年生
○ 実施時間	2～3時間（放課後）
○ 指導員数	2～3名

令和7年度の方針

事業終了

指標達成とはならなかったが、事業目的である児童の学習習慣の定着に一定の効果があった。

令和6年度実施状況

学習支援(学習ルーム)実施状況 … 5月上旬より順次開始。全小学校で実施。保護者宛のお便りや、公式LINEアプリを用いて学習ルームの情報を発信し、保護者の学習ルームへの関心を高める取組みを開始。

④【仮称】浪速区小学生を対象とした学力向上支援事業（案）

検討案

○ 目的

家庭の経済事情に関わりなく学習時間の確保及び学習機会を提供し、区内小学生の学習習慣の形成、基礎学力の向上に資する。

○ 事業内容

公募型プロポーザルにより民間事業者を選定し、協定を締結。少人数制による個別指導を行う。

○ 実施対象者

浪速区市立小学校に在籍する5年生及び6年生

○ 実施場所

浪速区民センター及び区内小学校（実施希望校）

○ 参加者負担

月額上限10,000円（大阪市習い事・塾代助成事業を活用すれば実質無料）

○ 予算

106千円（選定委員報酬、通信運搬費など）

⑤ 【仮称】浪速区登校支援が必要な児童生徒への支援事業（案）

検討案

○ 目的

区内小中学校に在籍する全ての児童生徒の学びを保証し、安心して学校生活を送ることができる教育環境を充実させる。

○ 事業内容

区内小中学校において、登校支援サポーター（有償ボランティア）を配置し、不登校や欠席や遅刻が多い児童生徒に対して登校支援を行う。

○ 報償金等

1時間あたり1,100円（別途交通費支給）

○ 予算

2,194千円（各学校に割り当てた予算内で実施）

○ 保険加入

区役所で一括して損害保険に加入。

⑤ 【仮称】登校支援が必要な児童生徒への支援事業（案）

検討案

予算要求から事業実施までの流れ

令和6年9月	予算要求
令和6年10月末	大阪市こどもの貧困対策関連事業として採択。
令和6年11～12月	各学校にて事業導入について検討。
令和7年1月頃	登校サポーターの配置を希望する場合は区役所へ申請。
令和7年2月	区ホームページ等で登校サポーターの募集を開始。 登録申請は行政オンラインシステムを利用して受付・面談。
令和7年3月	希望する小中学校において面談の上派遣決定。
令和7年4月以降	各学校園で随時活動を開始。